

学年	単元名	児童	場所	指導者
2年	つくろう！知新動物園	2年1組 23名 2年2組 24名 合計 47名	2階 ふくろうの部屋	広瀬 史雄 穴戸小恵美

1. 単元で身に付けさせたい力と学習対象の関連図

本単元で身に付けさせたい力

**学習対象・学習活動等**

ニワトリを飼ったり、餌となる青菜を栽培したりする。

**思考・認識等**

ニワトリや青菜などの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付く。

**能力・態度等**

生き物への親しみをもち、大切にすることが出来る。

**【単元の主なねらい】**

ニワトリなどの生き物の生命・成長への気付きを高め、それらへの愛着を深める。

**学習対象・学習活動等**

ニワトリなどの生き物と触れ合ったり、育てたりする。

**ひと**

・旭山動物園飼育係  
佐賀さん 佐藤さん

**もの**

・飼育しているニワトリ  
・栽培している青菜  
・聴診器  
・孵卵器

**こと**

・ニワトリの飼育活動  
・心音を聞く活動  
・雛の観察  
・孵化の観察

**体験活動**

○ニワトリの飼育体験      ○旭山動物園出張授業  
○雛の餌となる青菜の栽培活動      ○ニワトリの孵化の様子を観察

**国語科で取り扱った言語活動**

○メモをもとに聞き手に分かりやすく話したり、話の内容を正しく聞き取り、適切な質問をしたりする。  
○物の様子がよく伝わるように、順序や言い方を考えて話したり、様子を思い浮かべながら聞いたりする。

**本単元で重視する言語活動**

○ニワトリの成長の様子をポスターや紙芝居などにまとめ、交流する。  
○日々の飼育活動における気付きをカードに記録する。  
○飼育方法についてグループ内で話し合う。



## 2. 単元について

### (1) 教材化にあたって

本単元は、学習指導要領の内容（7）を中心に構想したものである。

**(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。**

これまでの生活科において、子どもたちは自分を取り巻く多くの身近な「人・もの・こと」に触れてきた。とりわけ本校においての生活科は、2年生の生活科の学習に1年生が参加するという異学年交流を重視しており、1年生のときには2年生とともに「学校探検」「おもちゃ祭り」などの学習をしてきている。

本単元では、旭川市を代表する施設、旭山動物園の飼育係さんや小動物との交流を中心に指導計画を作成した。旭山動物園から生後間もないニワトリの雛を借用し、1ヶ月間の飼育を通して成長に気付かせていく。単元の中で出張授業を3回行い、旭山動物園の動物たちとふれ合ったり、飼育係さんの話を聞いたりすることにより、動物たちの生命の尊さに気付き、自分たちも動物を飼育してみたいと願い、主体的で継続した飼育活動を行い、生き物への親しみをもち、より大切にすることができると思う。また、1ヶ月間にわたる飼育、また飼育する動物の餌となる植物を栽培する過程では、子どもたちの感性をゆさぶる場面が数多く生まれてくることと思う。しかし、子どもたちは事前調査からもわかる通り、驚くほど動物の飼育経験が少ない。1年生のときにウサギを3週間飼育し、アサガオを栽培したときには、子どもたちは熱心に世話をし、ウサギの様子やアサガオの成長の様子を熱っぽく語ってくれた。やはり、関心をもって飼育・栽培活動にかかわると、多くの気付きを得られると考える。特に、対象に繰り返しかかわることのできる継続飼育では、親しみの気もちが生まれ、親近感が育ち、動植物の立場に立った見方・考え方ができるようになり、気付きの質の高まりも期待できる。本単元では、生まれたばかりのニワトリの雛を継続飼育することにより、「成長」への気付きも期待することができる。また、孵卵器を動物園から借用することで、雛が孵化する瞬間に立ち会える可能性もある。生命の誕生に立ち会う経験は、低学年児童にとって大きなものであり、身の周りの生命を大切にしようとする心情の高まりも本単元を通して育てていきたい。

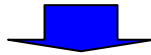


### (2) 児童の実態

#### 質問紙法による事前調査より

- ①家庭で生き物の飼育経験のある児童・・・55%（26人）【うち哺乳類・鳥類18人（38%）】
- ②現在家庭で生き物を飼育している児童・・・46%（22人）【うち哺乳類・鳥類12人（25%）】
- ③動物アレルギーのある児童・・・・・・・・・・23%（11人）
- ④学校で小動物を継続飼育する際、特別な配慮が必要な児童・・・4%（2人）

昨年度、学校のウサギ小屋から2羽のウサギを借用し、3週間ほど継続飼育をした。強度のアレルギーのある児童がいたため、教室内での飼育はできなかったが、子どもたちはケージを置いている特別教室に足繁く通って世話をし、休み時間には外へ散歩に連れ出し、休日にも学校へ集まって世話を続けた。児童の飼育活動への興味関心は高いが、家庭での飼育経験は多いとはいえない。また、強度の動物アレルギーのある児童へは、参加対応など特別な配慮が必要である。



### (3) 指導について

単元のスタートにあたり、旭山動物園の出張授業を依頼した。そこでニワトリの雛を貸していただき、1ヶ月間継続飼育する。人間によく懐き、穏やかな性格のニワトリに成長させることができれば、旭山動物園の「こども牧場」で一般客と触れ合う牧場家畜の仲間入りができること、できなければ、牧場の表に出すことができず、動物園に行っても再会することができないことを継続飼育の事前に子どもたちに伝える。そうすることにより、人間に懐かせる方法について自分たちで考えを出し合い、精一杯の愛情をかけて飼育活動に臨むだろう。関わりが深くなればなるほど、対象への気付きも増え、他者へ伝えたいことも増えてくる。また、生まれたての雛を1ヶ月間飼育する中で、飼育記録を蓄積し、雛が日々成長していくことや他の動物も同様に成長していることに気付かせたい。

### 3. 単元の目標

ニワトリの飼育や餌となる青菜の栽培を通し、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち大切にすることができるようにする。

### 4. 評価規準

#### (1) 単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
ニワトリや青菜の育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、親しんだり大切にしたりしようとしている。	ニワトリを飼ったり青菜を育てたりするとともに、世話をしたことや生き物のことについてすなおに表現することができる。	動植物は生命をもっていることや成長していること、またそれらの世話の仕方などに気付いている。

#### (2) 学習活動における具体的評価規準

単元 (次)	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
第1次 ②	○旭山動物園の飼育展示係さんや動物たちに自分からかかわろうとしている。	○出張授業で連れてきてもらった小動物たちとのふれあい方を自分なりに考え、気付いたことを絵や文で表現することができる。	○出張授業を通し、小動物たちの体にも温かみがあり、それらは生命をもっていることに気付いている。
第2次 ⑧	○ニワトリや青菜の飼育・栽培を楽しみながら行い、ニワトリのことが大好きになる。	○ニワトリに自分なりの考えでかかわったり、孵化の様子を観察したりして気付いたことを絵や文で表現することができる。	○飼育活動を通し、ニワトリに合ったお世話の仕方があることや自分たちと同じように成長していることに気付いている。
第3次 ⑤	○生き物への親しみやお世話することへの喜びを持ち、世話をしてきたニワトリの様子を友だちに伝えようとしている。	○生き物の成長への期待や世話の工夫、感じたことや気付いたことなどを自分の選んだ方法ですなおに表現することができる。	○飼育活動を振り返り、生き物も生命をもっていることや成長していること、世話の大切さや育てる喜びなどに気付いている。

## 5. 単元の展開 (全 15時間)

次	週	主な学習活動	□教師の支援 ◆評価
第1次	②	<p>○旭山動物園の飼育係佐賀さん, 子ども牧場佐藤さん, 脇坂さんたちと出会う (旭山動物園出張授業)。②</p> <p>○小動物たち (モルモット, ウサギ, ニワトリの雛, ヘビ) と出会う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">どうぶつたちとなかよくなるろう！</p> <p>○ふれあい方について話し合う。 ・だいてみたい。 ・えさをあげてみたい。</p> <p>○小動物たちとふれあう。 ○友達や自分, モルモットの心音を聴く。 ○ニワトリについて佐賀さんに教えてもらう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">ひよこももっとなかよくなるためにおせわをがんばるよ！！</p>	<p>□ 3名の GT を紹介する。</p> <p>□ 旭山動物園の子ども牧場から連れてきたことを伝える。</p> <p>□ 小動物たちとかかわれない子への支援。 ◆ 小動物とのかかわりへの意欲・かかわり方への気付き (発表)</p>
		<p>○ひよこのお世話を開始する。② ・名前をつけよう ・当番はどうしよう ・えさはどうしたらいいのかな</p> <p>○飼育日誌をつける。① ・からだのおもさを毎日はかろう</p> <p>○ひよこが孵化する場面を観察する。① ・くちばしが見えてきたよ</p> <p>○新しく増えたひよこのお世話について話し合う。① ・名前をつけよう</p> <p>○飼育しているひよこの「秘密」を見つける。① ・こんなことができるんだよ ・よく見ると○○になっているよ</p> <p>○飼育活動の経過観察とアドバイスによる見直しをする (旭山動物園出張授業)。① ・「おとなしいひよこだ」ってほめてもらえたよ ・あと一週間でひよこを返すのだから ・もっとひよこことあそびたいよ</p> <p>○アドバイスを受け, 今までのお世話の仕方を改めたり, 自信をもって続けたりする。①</p>	<p>□ 日常のお世話を自分たちでできるようにさせる。</p> <p>□ 名前をつけることで自分たちのひよこを大切にしようという気持ちをもたせる。</p> <p>□ 2年生でも測定できるデジタルばかりを用意する。</p> <p>□ 孵卵器の中で孵化する様子をリアルタイムで全員が見られるようにする。(ビデオカメラ・モニター)</p> <p>□ ひよこの行動や体の部位別に気付いたことを書かせ, 成長に気付かせる。</p> <p>□ 教師も GT も, グループごとの話し合いに参加し, 価値あるつぶやきや気付きを拾い, 全体に広げる。</p> <p>◆ お世話への喜びやニワトリへの親しみ, 成長への気付き (行動観察・発言)</p>
第3次	⑤	<p>○活動の振り返りをする。④</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">【予想される言語活動】 ・作文      ・成長記録 ・紙芝居    ・ポスター</p> <p>○発表会とお別れ会をする (旭山動物園出張授業)。① 【本時】 ・たくさんたべたのでこんなに大きくなりました ・いっぱいだったから, なかよしになったよ</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">ひよことなかよくなれたよ。おせわもがんばれたよ！！</p>	<p>□ 1ヶ月間の活動で学んだことや気付いたことなどを, ひよこの成長とあわせてまとめさせる。</p> <p>□ 飼育日誌や生活科カードを活用させる。</p> <p>□ 別れの演出。 ◆ ひよこと共に自分自身の成長にも気付いている。(発言)</p>

## 7. 第1次1・2時の学習<旭山動物園の出張授業>

(1) 第1次1・2時の目標 (T1 広瀬, T2 宍戸, T3 吉澤, GT 佐賀・佐藤・脇坂)

○小動物たちとの出会いの活動で、自分なりに小動物とかかわることを通して興味・関心をもち、穏やかなニワトリに育てることができるよう意欲をもつことができる。

(2) 第1次1・2時の展開【1・2／15時間目】

主な学習活動	□教師の働きかけ◆評価
1 旭山動物園の飼育展示係佐賀さん、子ども牧場佐藤さん、長期研修脇坂さんたちと出会う。	□旭山動物園からのGT3名を紹介する。
2 本時の学習内容を確認する。	□学習内容を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;">                     どうぶつたちとなかよくなるろう！                 </div>	
3 小動物たち（モルモット、ウサギ、ニワトリの雛）と出会う。	□全て旭山動物園の「子ども牧場」の動物であることを伝える。 (モルモット4匹 ウサギ4羽 ニワトリ8羽)
4 ふれあい方について話し合う。 ・せなかをなでてみたい。 ・耳をさわってみたい。 ・だっこをしてみたい。 ・えさをあげてみたい。	□小さな動物たちとどんな風にふれあいたいか意見を引き出す。(T2 板書) ◆小動物とのかかわりへの意欲・かかわり方への気付き(発表)
5 小動物たちとふれあう。 ○モルモット ○ウサギ ○ニワトリの雛 ※それぞれのコーナーにGT1名	□かかわりへ消極的な子どもへのはたらきかけとアレルギー児童への対応。 □ニワトリは生後間もない雛であり、借用して継続飼育するため、特にかかわりの深い児童を観察しておく。 ◆子どもの活動の様子を観察(行動観察)
6 ふれあい方について称賛のことばをいただく。	□動物のことを考えたふれあい方をしていいる児童を褒めてもらう。
7 聴診器5個でモルモットの心音を聴く。 ※順番を待つ間に残る5個で自分の心音を聴く。	□心音を聴くための環境を整える。 ◆生命への気付き(行動観察)
8 佐賀さんのパワーポイントで小動物や旭山の他の動物たちの食べ物を知る。 ※道徳との関連的指導	◆自分と同じように動物たちも他の動物の命をもらって生きていることへの気付き(カード)
9 動物たちと仲良くなって感じたことを話し合う。	◆仲良くなったからこそその気付き(発表) □「連れてきてもらった動物を学校で飼いたい」という意見を引き出す。子どもから出なければ提案する。(ニワトリ)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;">                     ひよこももっとなかよくなるためにお世話をがんばるよ！                 </div>	
10 佐賀さんたちとお別れをする。	
11 小動物たちとのふれあいから気付いたことをカードにまとめる。	⇒継続飼育での日常観察に生かす(身に付けさせたい力)

## 8. 第2次7時の学習<<旭山動物園の出張授業>>

(1) 第2次7時の目標 (T1 広瀬, T2 宍戸, T3 吉澤, GT 佐賀・佐藤・脇坂)

○ニワトリのお世話の仕方やかかわり方について考え, もっと人懐こいニワトリに育てようとする意欲や育ててきたニワトリのことをみんなに伝えようとする意欲をもつ。

(2) 第2次7時の展開【9/15時間目】

主な学習活動	□教師の働きかけ◆評価
1 旭山動物園の飼育係さんたちと再会する。	□旭山動物園からの GT3 名を紹介する。
2 本時の学習内容を確認する。	□学習内容を提示する。
ひよこのお世話について考えよう	
3 お世話の仕方について話し合う。 ・えさのとりかえ ・水のとりかえ ・ふんのとりかえ ・声かけやだっこ ・しいくにっしのつけ方	□これまでのお世話の様子やがんばっていることを出させ, 全体に広げる。 ◆ニワトリとのかかわりへの意欲や喜び・かかわり方への気付き (発表)
4 お世話で困っていることや, これから自分がしてみたいことを話し合う。	□生活班 (お世話グループ) で話し合わせる。 ※GT 3 名と担任は各グループの話し合いを聞いてまわり, 必要であればアドバイスをする。
5 グループで話し合ったことの中で, これまでと何か変わるところがあれば交流する。	□全体に広げたい事柄をチェックしておく, 指名発表も視野に入れておく。
6 普段のお世話をしているところを見せてもらう。 ○体重測定 ○えさや水の取替え ○糞の始末 ○飼育日誌 ○ふれあい	□ニワトリに合ったお世話の仕方をしているか, 「こども牧場」で一般客と触れ合う牧場家畜の仲間入りができるかなどの視点で見えていただく。 ◆お世話への喜びやニワトリへの親しみ (行動観察) ◆生命への気付き (行動観察)
7 ふれあい方について称賛のことばやアドバイスをいただく。	□GT 3 名にそれぞれの見取ったグループについて評価していただく。
8 飼育活動があと一週間であること, ひよこの成長や気付いたことの交流会をすることを佐賀さんの話から知る。 ・もっとひよことあそびたいよ ・せっかく大きくなってきたのにな ・かえしたくないよ ・ひよこのことをがんばってまとめよう	□残りの日数で, もっと人懐こいニワトリに育てようとする意欲をもたせる。 ◆ニワトリへの親しみ (発言)
お世話をしてきたひよこのことをみんなに知ってもらいたい!	
9 飼育係さんたちのお別れをする。	

## 9. 本時の授業

### (1) 第3次5時の目標 (T1 広瀬, T2 宍戸, T3 吉澤, GT 佐賀・佐藤・脇坂)

○ニワトリのお世話を通して得た主体的な気づきを発表し合うことで、生き物も生命をもっていることや成長していること、世話の大切さや育てる喜びなどへの気づきを深める。

### (2) 本時の展開【15/15】

主な学習活動	□教師の働きかけ◆評価
1 これまでの飼育活動やひよこことのかかわり方を想起する。 2 本時の学習内容を確認する。	<input type="checkbox"/> 6月10日から7月8日までの期間のことや、休み時間ごとのお世話、孵化の観察などを想起させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ひよこのお世話をとおしてきづいたことをみんなに聞いてもらおう。</div>	
3 グループごとにお世話を通して気付いたことや感じたことを発表し、それぞれに意見交流をする。 ※8グループを3つに分けて3回の発表交流をする。 ①3G②3G③2G (10×3=30分) 4 これまでの継続飼育への称賛のことばをいただく。 5 ひよこの成長と自分自身の成長を重ねて考える。 ・いろいろなえさをくれてありがとう ・いつもへやをきれいにしてくれたね ・はじめはぼくをこわがっていたけれど、やさしくだっこしてくれるようになったね 6 最後のお世話をする。 ○体重測定 ○糞の始末 ○飼育日誌 ○ふれあいや声かけ ○えさや水の取替え 7 グループ代表者が一人ずつニワトリに声をかける。 8 ニワトリとのお別れをする。	<input type="checkbox"/> 発表に対し、参加者が質問や意見を述べたり、それに答えたりする交流の時間をもつことで、これまでの活動に自信をもたせ、自己肯定感を高める。 <input type="checkbox"/> GTの飼育係さんたちに、ひよこの成長と子どもたちのがんばりをほめてもらう。 <input type="checkbox"/> できるようになったことが増えたこと、動物への思いやりなどの内面的な成長に気付くことができるよう、ひよこからの感謝の言葉を想像し、カードに書かせる。 ◆自分自身への成長への気づき (発言・カード) <input type="checkbox"/> いつもと同じようにひよこのお世話をさせる。ただし、最後であることを確認する。 <input type="checkbox"/> 8人の児童が自分の飼育したひよこにお別れのことばを言うよう促す。 <input type="checkbox"/> 全員で玄関に出て、飼育係さんがひよこを車に積み込んで知新小から旭山動物園に帰っていく様子を見送らせる。
<div style="border: 3px double black; padding: 10px;">ひよことなかよくなれたよ。お世話もがんばれたよ！！</div>	

## 10. 本時の評価規準

◇ 評価規準の具体（評価方法～発言・学習ノート）

十分満足できる (A) 発表を聞き合い、意見を交流する中で、ひよこや自分の成長、世話の大切さや育てる喜びに気付いている。

おおむね満足できる (B) 発表を聞き合い、ひよこや自分の成長に気付くことができる。  
 努力を要する児童への指導 今までのお世話を振り返らせ、ひよこの成長について考えられるよう支援する。

## 11. 本時の板書計画（教室環境）

